

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

学校・学級経営コース  
／兼松 儀郎

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

○学部の「道徳教育指導論」については、本年度は特に道徳教育をめぐる今日的課題をとらえつつ、基礎的理解を深め、実践的指導力の育成を図る。また、実地指導講師を招き、学校現場の実践との関連を図る。  
○教職大学院の授業においては、大学院生自身の教職経験を踏まえ、討論・発表を積極的に取り入れ、教育課題の把握や課題分析・課題解決の能力を培うことを目指す。

## 2. 点検・評価

○学部の「道徳教育指導論」については、教育実践力の育成に関する到達目標を明確にし、授業を展開した。また、実地指導講師を招き、学校現場の実践との関連を図った。  
○教職大学院の「人間の成長と道徳教育」については、特に次の事項に留意して授業の充実を図った。(1)大学院生自身の教職経験を踏まえ、討論・発表を積極的に取り入れた。(2)受講生による討論によって、教育課題を明確化し、さらに課題解決への方向性を自ら見出すよう工夫した。(3)模擬授業を実施し、事前の準備や事後の振り返りを通じて実践的指導力の向上を図った。(4)授業後、受講者から提出されるレポート等に対して必ずコメントを返した。  
○教職大学院の「教育政策と教育行政」については、特に次の事項に留意して授業の充実を図った。(1)教育政策や教育改革の動向、学校課題と教育政策、教育行政の視点からみた学校教育等について基礎的事項が身に付くよう、授業内容を精選した。(2)学校教育の現実に即して理解を深めるよう、討論、発表、役割演技など多様な指導方法を適用した。(3)教育政策・教育行政と受講生自身の研究課題との関連性に受講生自身が気付くよう配慮するとともに、事前に課題を提示するなど、授業と授業との間に連続性をもたせた。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

○学部の学生については、実践的指導力の育成を目指し、授業内容を工夫するとともに、学校教育や教育行政の経験を生かし教員として求められる資質・能力の育成を図る。  
○教職大学院の学生については、教育実践に関する研究能力を身に付けさせるとともに、学校の中堅教員・教育行政職員として求められる能力の涵養を図る。また、実習校との意思疎通を図りながら、学校課題フィールドワーク・異校種フィールドワークが円滑に遂行されるよう支援する。

## 2. 点検・評価

○学部の学生については、教員としての基礎的事項を身に付けるよう授業内容を精選した。また、教育行政の視点から見た学校教育の充実についても具体的理解を促した。  
○教職大学院の学生については、授業、ゼミ指導、中間発表会、構想発表会等を通じて、教育実践に関する研究能力を身に付けさせるとともに、学校の中堅教員・教育行政職員として求められる能力の涵養を図った。また、実習校との意思疎通を図りながら、学校課題フィールドワーク・異校種フィールドワークが円滑に遂行されるよう学校訪問、事前指導、事後指導の充実に努めた。  
○ゼミ学生については、研究指導を計画的に進めるとともに、生活全体のバランスを保ち、充実した大学院生活となるよう配慮した。

## Ⅱ-2. 研究

### 1. 目標・計画

○科学研究費補助金採択課題について研究を遂行する。  
○中等教育における道德教育について、国内外の資料収集・分析を行う。  
○論文発表、学会発表等を積極的に行う。

## 2. 点検・評価

○科学研究費補助金研究課題について研究を遂行した。  
○中等教育における道德教育の実情や課題について、学校訪問、教員研修における意見交換、学会参加等を通じて、資料収集・分析を行った。  
○著書『ランゲフェルト教育学との対話』を出版した。(6月、玉川大学出版部、共著)  
○日本道德教育学会で学会発表を行った。(7月、長崎大学)  
○International Conference on Moral Educationで学会発表を行った。(10月、中華人民共和国南京市)

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

○教職大学院学校・学級経営コース長としての職務及び学内委員会等における職務の遂行に努める。  
○教職大学院の専任教員として、教育研究活動の充実に努める。  
○連合大学院の教育研究活動の充実に努める。

## 2. 点検・評価

○教職大学院学校・学級経営コース長としての職務及び学内委員会等における職務の遂行に努めた。特に、コース内の文書回覧については、電子メールを利用し、効率化に務めた。  
○教職大学院の専任教員として、学校課題フィールドワークの指導をはじめとして、教育研究活動の充実に努めた。  
○連合大学院において、研究指導、論文査読等、教育研究活動の充実に努めた。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- 附属学校における実践研究の充実に向けて協力する。
- 海外の学術協定大学等との研究交流を深める。
- 徳島県立総合教育センターの事業実施に協力する。
- 学外の研修会等の講師依頼については、できるだけ要望に応じる。

### 2. 点検・評価

- 徳島県道德教育推進協議会会長として、徳島県立総合教育センターの事業実施に協力した。
- 国立教育政策研究所の評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者、独立行政法人教員研修センターの道德教育指導者養成研修講師を務めた。
- 鳴門教育大学教育支援講師を務めた。
- 兵庫県立淡路三原高等学校の学校評議員を務めた。
- International Conference on Moral Educationにおいて、学術協定大学教員との研究交流を行った。(10月、中華人民共和国南京市、再掲)

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)